

日本地域学会ニューズレター

平成 24 年 no.2

平成 24 年 9 月 20 日

目 次

| | | |
|------|--|-------|
| I. | 日本地域学会 設立 50 周年記念 第 49 回年次大会 (平成 24 年 10 月 6～8 日) 参加登録について | ... 2 |
| II. | 平成 24 年度日本地域学会総会 (平成 24 年 10 月 7 日) 出席のお願い | ... 2 |
| III. | 理事会報告 平成 24 年度 第 1～2 回理事会 | ... 3 |
| IV. | 委員会報告 | ... 4 |
| | 1. 学会賞選考委員会報告 日本地域学会学会賞および 50 周年記念特別表彰 授賞者の決定 | |
| | 2. 優秀発表賞選考委員会報告 昨年度の年次大会 最優秀発表賞授賞者の決定 | |
| | 3. 機関誌編集委員会報告 機関誌編集委員会 第 36～39 回機関誌編集委員会報告 | |
| V. | 会員通信 | ... 6 |
| | <研究室便り> 茨城大学農学部地域環境科学科 生命系経済学研究室 准教授 内田 晋 | |
| | 第 49 回年次大会準備委員会からのお知らせ 第 49 回年次大会の会場案内 | ... 9 |

I. 日本地域学会 設立 50 周年記念 第 49 回年次大会 (平成 24 年 10 月 6 日-8 日)

平成 24 年 (2012 年) は日本地域学会の設立から 50 周年にあたります。この大切な節目の年次大会が立正大学において下記の通り開催されます。積極的にご参加いただきますようお願い申し上げます。

記

開催日: 2010 年 10 月 6 日 (土)-8 日 (月)

開催校: 立正大学

会 場: 立正大学 大崎キャンパス (会場案内は別掲)

〒 141-8602 東京都品川区大崎 4-2-16

大会実行 (準備) 委員会

顧 問: 福岡 克也 (立正大学名誉教授)

委員長: 藤岡 明房 (立正大学経済学部教授)

副委員長: 小野 保 (立正大学経済学部教授)

連絡先: 立正大学経済学部

〒 141-8602 東京都品川区大崎 4-2-16

e-mail: jsrsai2012@gmail.com

大会情報 url: <http://jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp/>

公開シンポジウム

日 時: 2012 年 10 月 7 日 (日)15:30-18:00

会 場: 立正大学 大崎キャンパス 石橋湛山記念講堂

テーマ: 『地域経済の持続性 -国土の将来の姿を考える-』

[総合司会]

小野 保 (大会実行副委員長, 立正大学経済学部教授)

[基調講演]

宍戸 駿太郎 (国際大学・筑波大学名誉教授)

演題: 『今後の社会資本整備と経済成長』

パネルディスカッション

テーマ: 『わが国の国土の将来と地域経済』

[パネリスト]

川上 征雄 (前国土交通省大臣官房審議官<国土政策担当>)

藤井 聡 (京都大学大学院教授)

藤岡 明房 (大会実行委員長, 立正大学経済学部教授)

[コメンテータ]

宍戸 駿太郎 (前出)

[コーディネータ]

光多 長温 (鳥取大学特任教授)

| | | |
|--------------------|--------|----------|
| 参加費: | 一般会員 | 5,000 円 |
| | 大学院生会員 | 3,000 円 |
| | 非会員 | 10,000 円 |
| (公開シンポジウムのみの参加は無料) | | |
| 懇親会費: | 一般会員 | 5,000 円 |
| | 大学院生 | 2,000 円 |

申込み方法: 同封の返信用ハガキで参加をお申し込み下さい。座長, 発表者, 討論者を含め全ての参加者に申込みが必要です。

また, 大会中の昼食の弁当の予約を承ります。必要な方は各日について返信ハガキに印をつけてお申し込み下さい。なお, 総会 (7 日 13:30~) を欠席される場合は, 委任状欄の記入もお願い致します。

注意事項:

1. 最新のプログラムは以下の日本地域学会 HP (以下, 学会 HP) にて公表する予定です。

http://jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp/index_jap.html

2. 発表予定稿が提出されたものについては, 学会 HP から事前にダウンロードできるようにする予定です。

3. 大会準備委員会としてホテルの手配はしておりません。各自でご予約いただきますようお願い致します。

4. 期間中の昼食は上記弁当を予約するか, 大学周辺の飲食店をご利用下さい。

以上

II. 平成 24 年度日本地域学会総会 (平成 24 年 10 月 7 日)

日本地域学会 会員 各位

日本地域学会

会長 氷鮑 揚四郎

本年度総会を下記要領で開催致しますのでご出席下さい。なお, 欠席される場合には同封のハガキにて委任状をご提出下さい。

記

日 時: 平成 24 年 10 月 7 日 (日) 13:30-15:00

場 所: 立正大学 大崎キャンパス 石橋湛山記念講堂

総会次第

1. 開会の辞

2. 会長挨拶

3. 来賓挨拶
4. 議題
 - 1) 新入会員・退会希望者の承認
 - 2) 平成 23 年度の事業報告の承認
 - 3) 平成 23 年度の収支決算の承認
 - 4) 平成 25 年度の事業計画の承認
 - 5) 平成 25 年度の収支予算の承認
 - 6) 平成 24 年度の収支予算 (修正案) の承認
 - 7) 名誉会員の承認
 - 8) 第 50 回 (2013 年) 年次大会の開催地, 開催校等の承認
 - 9) 第 51 回 (2014 年) 年次大会の開催地, 開催校等の取扱いの承認
 - 10) その他
5. 報告
 - 1) 新入会員キャンペーンの継続
 - 2) 『地域学研究 (42 巻)』の編集
 - 3) RSAI の動向
 - 4) PRSCO の動向
 - 5) その他
6. 学会賞授与式
 - 1) 選考経過報告
 - 2) 学会賞授与 (受賞者は IV. 委員会報告に別掲)
 - 3) 受賞者挨拶
7. その他
8. 閉会の辞

以上

III. 理事会報告

平成 24 年度 第 1 回理事会

日時: 平成 24 年 6 月 3 日 (日)13:00-15:00

場所: 学術総合センター会議室

出席者: 氷鮑, 加賀屋, 宮田, 洪澤, 高橋, 阿部, 臼井, 岡村, 木南, 河野, 近藤, 斎藤, 酒井, 多和田, 徳永, 中山, 萩原, 原, 福井, 藤岡, 三橋, 三友の各理事 (ただし, 戸田, 長野, 林, 松本, 宮城の各理事より委任状付託); 柳原監事, 小野崎年次大会準備委員, 木南章編集委員会副委員長; 水野谷, 櫻井, 内田, 古澤, 徐峰の各幹事; 坂田事務局秘書
議題

1. 新入会員・退会希望者の承認

洪澤総務担当常任理事より, 前回理事会以降, 申込のあった 22 名の正会員 (個人会員) の入会と 36 名の正会員 (個人会員) の退会及び 1 団体 (法人会員) の退会希望を審議した。数名の会員については, 退会慰留の確認のち, 総会に諮ることを諒承。

2. 平成 23 年度事業報告

洪澤総務担当常任理事より, 平成 23 年度事業報告について説明があり, 総会に諮ることを諒承。

3. 平成 23 年度決算 (案) の審議と承認

氷鮑会長より, 平成 23 年度決算 (案) について説明があり, 総会に諮ることを諒承。

4. 平成 25 年度事業計画

洪澤総務担当常任理事より, 平成 25 年度事業計画について説明があり, 総会に諮ることを諒承。

5. 平成 24 年度予算 (修正案) の審議と承認

氷鮑会長より, 平成 24 年度予算 (修正案) について説明があり, 事務局員の人件費の計上を諒承。今期の会員名簿は作成せず, 支出の削減努力を行うとの説明があった。これを総会に諮ることを諒承。

6. 平成 25 年度予算 (案) の審議と承認

氷鮑会長より, 平成 25 年度予算 (案) について説明があり, これを総会に諮ることを諒承。

7. 第 49 回 (2012 年) 年次大会の並行セッション及びシンポジウムの構成

藤岡年次大会準備委員会委員長と櫻井幹事より, 年次大会の構成について説明があり, これを諒承。

8. 第 50 回 (2013 年) 年次大会の件

近藤理事より, 2013 年 10 月 12 日 - 14 日に, 徳島大学工学部で年次大会を開催する計画であることの説明があり, これを諒承。

9. 日本地域学会『地域学研究』掲載論文等の執筆要綱を定める規程を改訂する規程, 日本地域学会『地域学研究』学術論文等審査規程を改訂する規程及び日本地域学会機関誌編集委員会規程を改定する規程の件

多和田機関誌編集委員会委員長と氷鮑会長より, 地域学研究の審査投稿システムの導入に対応して, 規程を改定する規程を機関誌編集委員会において策定したことの説明があり, これを諒承。

10. 『地域学研究』セット販売の推進

氷鮑会長より, 機関誌のセット販売の推進について説明があり, これを諒承。

11. 新入会員勧誘キャンペーンの推進

氷鉋会長より、新入会員勧誘キャンペーンの推進について説明があり、これを諒承。

12. その他

氷鉋会長より、学会の法人化について説明があり、今後情報収集を行いながら検討してゆくことを諒承。

報告事項

1. 機関誌編集委員会報告

多和田機関誌編集委員長より『地域学研究』42巻の掲載候補論文の選考結果と印刷状況について報告が行われた。

2. 第2回学会賞優秀発表賞選考委員会報告

酒井学会賞優秀発表賞選考委員会委員長より、選考結果について報告が行われた。

3. 第1回学会賞選考委員会報告

酒井学会賞選考委員会委員長より、論文賞、奨励賞、著作賞、50周年記念特別表彰の選考結果について報告が行われた。

4. RSAIの動向

5. PRSCOの動向

平成24年度 第2回理事会

日時: 平成24年7月22日(日)13:00-15:00

場所: 学術総合センター会議室

出席者: 氷鉋, 加賀屋, 洪澤, 高橋, 臼井, 岡村, 河野, 近藤, 斎藤, 酒井, 多和田, 徳永, 戸田, 萩原, 原, 藤岡, 松本, 宮城の各理事(ただし, 宮田, 阿部, 有吉, 木南, 林, 福井, 三友の各理事より委任状付託); 柳原監事, 小野崎年次大会準備委員, 鐘ヶ江学術副委員長; 木南章編集委員会副委員長; 内田, 小林, 櫻井, 水野谷の各幹事; 坂田事務局秘書

議題

1. 新入会員・退会希望者の承認

洪澤総務担当常任理事より前理事会の入会大会の訂正の説明の後、申込のあった8名の正会員(個人会員)の入会と30名の正会員(個人会員)の退会の希望を審議した。総会に諮ることを諒承。

2. 第49回(2012年)年次大会の並行セッション及びシンポジウムの編成

藤岡年次大会準備委員長と櫻井幹事より、年次大会の並行セッション及びシンポジウムの編成について説明が

あり、これを諒承。

3. 第50回(2012年)年次大会準備の進捗状況

近藤理事より進捗状況について説明があり、これを諒承。

4. 平成25・26年定期理事選挙

氷鉋会長より9月20日締切りで郵送により理事選挙を行うとの説明があり、これを諒承。

5. 日本地域学会設立50周年記念式典(案)

洪澤総務担当常任理事及び氷鉋会長より設立50周年記念式典の案について説明があり、これを諒承。

6. 『地域学研究』セット販売の推進

氷鉋会長より機関誌のセット販売の推進について説明があり、これを諒承。

7. 新入会員勧誘キャンペーンの推進

これに関して氷鉋総務担当常任理事より、新入会員勧誘について説明があり、これを諒承。

報告事項

1. 機関誌編集委員会報告

多和田機関誌編集委員長より『地域学研究』第42巻の掲載候補論文の選考結果と印刷状況について報告が行われた。

2. 第2回学会賞選考委員会報告

酒井学会賞選考委員会委員長より、論文賞、奨励賞、著作賞、学位論文賞、50周年記念特別表彰の選考結果について報告が行われた。

3. RSAIの動向

4. PRSCOの動向

IV. 委員会報告

1. 学会賞選考委員会

学会賞選考委員会(委員長 酒井泰弘 滋賀大学名誉教授)では、慎重な審議の上、下記の会員の方々に平成24年度(第21回)日本地域学会学会賞を授与する事を決定しました。授与式は本年度の総会で執り行われます。

功績賞:

該当者なし

論文賞:

藤岡 明房(立正大学経済学部教授) 経済学修士

主題: 財政赤字と上からの地方分権

岡村 誠(広島大学大学院社会科学部研究科教授) Ph.D

主題: 国内企業の産業間移動と最適関税

佐々木 啓介 (東洋大学経済学部教授) 博士 (経済学)

主題: 投資不確実性下の非営利組織と情報共有 -被害除去とリスク回避的投資行動について-

奨励賞:

古澤 慎一 (新潟大学農学部助教) 博士 (学術)

主題: 新潟県における共有資源の管理活動に関する政策的一考察

著作賞:

松行 康夫 (東洋大学名誉教授) 学術博士

『ソーシャルイノベーション -地域公共圏のガバナンス-』

学位論文賞:

田中啓一賞 (博士論文賞)

沖山 充 (株式会社現代文化研究所客員研究員) 課程博士 (学術)

主題: タイにおけるバイオ燃料生産拡大による農業及び食料関連産業への影響に関する実証分析 -応用一般均衡アプローチ-

山城 興介 (福岡大学都市空間情報行動研究所ポスドクター) 博士 (経済学)

主題: 消費者行動アプローチにもとづく交通政策の評価に関する研究

王 敦彦 (筑波大学生命環境科学研究科博士特別研究員) 博士 (学術)

主題: The feasibility of combing the algae-to-oil system with advanced sewage treatment

熊田禎宣賞 (修士論文賞)

Ha Thi Thu Trang (豊橋技術科学大学博士後期課程) 修士 (工学)

主題: A spatial computable general equilibrium model of San-En-Nanshin Region in Japan

加藤 裕人 (東海旅客鉄道株式会社) 修士 (情報科学)

主題: DSGE モデルによる公共投資の効果分析とモデルの時変パラメータ推定に関する研究

盧 克宇 (筑波大学生命環境科学研究科博士課程) 修士 (環境学)

主題: Scenario analysis of municipal solid waste management system in Shanghai

50周年記念特別表彰

功績賞:

河野 博忠 (筑波大学名誉教授)

論文賞:

Peter Batey (Department of Civic Design, Faculty of Social and Environmental Studies, The University of Liverpool)

主題: 英国の都市再生政策評価手法に関する研究

David Boyce (University of Illinois)

主題: Predicting Road Traffic Route Flows Uniquely for Urban Transportation Planning

論説賞:

Antoine Bailly (University of Geneva)

主題: Subjectivity of Knowledge and Applied Regional Science

Kingsley Haynes (School of Public Policy, George Mason University)

主題: The knowledge network and learning in a competitive environment: a learning regional model

2. 優秀発表賞選考委員会

優秀発表賞選考委員会 (委員長 酒井泰弘 滋賀大学名誉教授) では、昨年度の年次大会における優秀発表賞受賞者を対象とし、最優秀発表賞の選考を行ってきました。このたび慎重な審議により、下記の会員の方に授与することを決定しました。授与式は今年度の総会で執り行われます。

最優秀発表賞:

Nan Xiang (University of Tsukuba)

主題: Comprehensive Evaluation of Effectively Utilizing Reclaimed Water to Accomplish Sustainable Development in Tianjin, China.

3. 機関誌編集委員会

第36回 機関誌編集委員会

日時: 平成24年2月5日 (日) 13:30-14:30

場所: 学術総合センター会議室

出席者: 多和田, 松本, 木南 (章), 加賀屋, 木南 (莉), 渋澤, 高橋, 光多, 三友, 福井の各編集委員 (ただし浅見, 戸田の各委員より委任状付託), オブザーバとして古澤, 水野谷, 小林, 内田の各幹事, 坂田事務局秘書

議題:

1) 『地域学研究』第41巻掲載候補論文の選考ならびに掲載論文の決定

レフェリー評価に基づき第41巻の掲載候補論文の選考が行われ、掲載論文を決定した。

2) 同上機関誌印刷方針

第41巻の発行計画と印刷状況について、渋澤総務担当常任理事より報告があった。

3) 同上機関誌書評欄応募図書の取扱い

第37回 機関誌編集委員会

日時: 平成24年4月22日(日) 11:00-12:30

場所: 学術総合センター会議室

出席者: 多和田, 木南(章), 加賀屋, 木南(莉), 渋澤, 高橋, 藤岡, 光多, 三友, 吉田の各編集委員(ただし浅見, 氷鮑, 福井の各委員より委任状付託), オブザーバとして古澤, 水野谷, 小林, 内田の各幹事, 坂田事務局秘書

議題:

1) 『地域学研究』第42巻掲載候補論文の選考ならびに掲載論文の決定

レフェリー評価に基づき第42巻の掲載候補論文の選考が行われ、掲載論文を決定した。

2) 同上機関誌印刷方針

第42巻の発行計画と印刷状況について、渋澤総務担当常任理事より報告があった。

3) 同上機関誌書評欄応募図書の取扱い

4) その他

J-Stage 投稿審査システムの導入体制の説明と分担の確認が行われた。

第38回 機関誌編集委員会

日時: 平成24年6月3日(日) 11:00-12:00

場所: 学術総合センター会議室

出席者: 多和田, 木南(章), 氷鮑, 加賀屋, 木南(莉), 実積, 渋澤, 高橋, 藤岡, 光多, 三友の各編集委員(ただし松本, 浅見, 福井の各委員より委任状付託), オブザーバとして酒井, 岡村, 萩原の各理事, 内田, 櫻井, 徐, 古澤, 水野谷の各幹事, 坂田事務局秘書

議題:

1) 『地域学研究』第42巻掲載候補論文の選考ならびに掲載論文の決定

レフェリー評価に基づき第42巻の掲載候補論文の選考が行われ、掲載論文を決定した。

2) 同上機関誌印刷方針

第42巻の発行計画および印刷状況について、氷鮑揚四郎編集総務より報告があった。

3) 同上機関誌書評欄応募図書の取扱い

4) その他

以下について報告および検討がなされた。

- 「地域学研究」投稿審査システムのオンライン化について
- 関連規程の改正(案)について
- 科学研究費補助金「学術定期刊行物」の申請・採択状況について

第39回 機関誌編集委員会

日時: 平成24年7月22日(日) 11:00-12:00

場所: 学術総合センター会議室

出席者: 多和田, 松本, 木南(章), 氷鮑, 加賀屋, 渋澤, 高橋, 藤岡, の各編集委員(ただし浅見, 木南(莉), 実積, 光多, 三友, 福井の各委員より委任状付託), オブザーバとして酒井, 岡村, 萩原の各理事, 水野谷, 小林, 内田の各幹事, 坂田事務局秘書

議題:

1) 『地域学研究』第42巻掲載候補論文の選考ならびに掲載論文の決定

レフェリー評価に基づき第42巻の掲載候補論文の選考が行われ、掲載論文を決定した。

2) 同上機関誌印刷方針

第42巻の発行計画と印刷状況について、氷鮑揚四郎編集総務より報告があった。

3) 同上機関誌書評欄応募図書の取扱い

4) その他

『地域学研究』投稿審査システムのオンライン化について

V. 会員通信

<研究室便り> 茨城大学農学部地域環境科学科の紹介
茨城大学農学部
准教授 内田 晋

本来であれば本記事は筆者のゼミを紹介すべきところであるが、1月に着任して半年が経過したところであり、

最初のゼミ生3名の配属がようやく決まった、産声を上げたばかりのゼミである。ここでは個人や学科全体のことと合わせた紹介となることをお許しいただきたい。

いわゆる「脱サラ研究者」として、自分にとって全く未知の分野に遅れて飛び込んだ立場から研究職を眺めてみると、企業と比較してはるかに自由であるというのは間違いない。初めて大学教員になって、それまで先輩方から聞かされていた教務や組織運営の負担を実感しているところでもあるが、それらのエフォートはある程度までは自分で配分を決めることも可能である。もちろん、その結果は全部自分で負うとともに研究成果も上げなければならない。そうした点ではこの仕事は芸術家・小説家・音楽家といった職業に近いものを感じている(やりがいや門の狭さといった点も含めて)。音楽の好きな筆者は学会発表をライブ、論文をアルバムと捉えて仕事をする時がある。アルバムをリリースする際には常にそれなりの感慨が伴うが、残念なことに売れ行き(引用数)は芳しくない。

私的な話はこの辺までとし、大学と学科の簡単な紹介をさせていただく。茨城大学は水戸の本部の他に阿見の農学部と日立の工学部の合計3キャンパスを拠点としているが、これは複数の学校を前身とした名残である。全学的な研究活動としては、例えば東京大学を中心とする「サステナビリティ学連携研究機構」(IR3S)に参画するとともにその1機関である「地球変動適応科学研究機関」(ICAS)を学内に設立し、領域横断的な研究を行っている。その他にも筑波や東海村に近いという立地を生かした応用原子科学などが特徴的である。また地域貢献活動も活発であり、日本経済新聞社産業地域研究所の「平成23年度大学地域貢献度ランキング」で第5位にランクされた。

阿見キャンパスにある農学部はもともと海軍航空隊跡地に建てられた霞ヶ浦農科大学が県に移管されて茨城県立農科大学となり、それが茨城大学に併合されたものである。霞ヶ浦の南西岸、土浦駅から5kmほどの所に位置する小ぢんまりとしたキャンパスである。農学部の学生は1年生の時に水戸で教養科目を履修したのちに2年生以降を阿見で過ごすことになる。

農学部は生物生産科学科、資源生物科学科、地域環境科学科の3学科で構成され、生物生産はさらに植物生産科学と動物生産科学、地域環境は地域環境工学と緑環境

(りよくかんきょう)システムのそれぞれ2カリキュラムに分かれ、単一カリキュラムの資源生物科学と合わせて5つのカリキュラムから成る。筆者が所属するのは地域環境科学科の緑環境システムカリキュラムである。

緑環境システムカリキュラムは7研究室9教員で構成され、主に農業経済学や農業情報科学といった分野の研究を行っている。筆者は伊丹一浩准教授とともに生命系経済学研究室に籍を置いている。生命系経済学というのとはなじみの薄い名称であるが、ほぼ環境経済学と同義と考えてよく、学科でも最も「環境」を前面に出した研究室という位置付けになっている。学部全体を見渡してみても、環境を俯瞰的に捉える研究室がほかに見当たらないことから、本研究室が教育面でも環境科学、環境経済学の基礎的な部分を担っていると言える。

2名の教員は別々のゼミを担当しており、当ゼミの研究テーマは環境と経済の「評価」である。具体的には評価を手法とする研究と評価を対象とする研究に分かれる。前者は個別の農業生産プロセスや技術、または特定の地域などを対象に、ライフサイクルアセスメント(LCA)や産業連関分析などの手法により評価を行うものである。一方、後者のテーマは評価手法の改良に関する研究で、一例としては経済システムへの影響を考慮したLCA(Consequential LCAと呼ばれる)手法の開発が挙げられる。その他、水やリンといった資源の稀少性に関する評価指標の開発といったテーマも含まれる。農業経済系の学科でしばしば見られるように、緑環境システムカリキュラムは農学部という理系学部の中で社会科学を扱っているためやや特殊なイメージを持たれているが、その中で本ゼミはさらに数字やデータをベースにした理系的な研究ということで複雑な様相を呈している。

評価を研究テーマにしていると、他の研究の評価という形でプロジェクト研究に参画する機会にも恵まれる。第三者によるプロジェクトの評価の際には、研究対象となる技術の自己評価が行われるか否かも重要なポイントとなる。実際、学内または共同プロジェクトへのお誘いをぼつぼつと頂いているところである。評価というのは単独で何かを生み出すというものではないが、社会への貢献度の高い研究活動の一部としてこのような形で参画するチャンスが今後増えていくことを望んでいる。

冒頭でも述べたとおり、秋から初めてのゼミ生(3年生)が配属になり、卒論の指導をすることになる。これま

で研究そのものに関してはあまりコミュニケーションを取らずにやってきたので、指導することに対する不安はあるものの、今後は大学院生も指導するようになるであろうから、地域学会の Early Bird セッションに早く自分の学生を立たせることができるよう、人数とコンテンツを増やしていきたい。

(丁)